

## 活動報告

2018 平昌冬季パラリンピックを視察して  
Report of the PyeongChang 2018 Paralympic Winter Games

三井 利仁  
Toshihito MITSUI

日本福祉大学 スポーツ科学部  
Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

## 1. はじめに

1988年ソウルパラリンピック開催後30年の時を経てついに、大韓民国で初の冬季パラリンピックが開催され、アジアでは1998年長野冬季パラリンピック以来、20年ぶりに開催された。大韓民国・平昌は三度の挑戦の末、2011年7月7日に開かれた第123回IOC総会で過半数票を獲得し、2018年冬季オリンピック及びパラリンピックの開催地に選ばれた。

2016年、ロシアの国ぐるみのドーピング疑惑が発生して世界アンチ・ドーピング機構(WADA)などがロシア選手のオリンピックへの出場停止を勧告した。国際パラリンピック委員会(以下、IPCと示す)は2017年1月にロシアパラリンピック五輪委員会(以下、ロシアパラ五輪委と示す)に対し予選の参加を認めない声明を出した。これはリオパラ五輪と同様の措置である。出場資格を有し、かつIPCの反ドーピング規程に従うことを立証できる個人選手らは、「中立パラリンピック選手」"Neutral Paralympic Athletes"(NPA)として、いかなる式典においても中立的なパラリンピック旗とパラリンピック賛歌の下、出場することが許された。

今回、私は日本パラリンピック委員会強化委員として日本選手の強化支援の現状を確認し、今後の強

化施策の指標を確認することを目的に平昌を視察した報告をおこなう。

## 2. 視察報告

## 2-1. 参加国と参加選手数

平昌冬季パラリンピックの大会組織委員会は、過去の冬季大会で最多となる49カ国・地域から570選手のエントリーがあったと発表した。これまでの最多は前回ソチ大会で、45カ国・地域から547選手が参加した。

## 2-2. 開催地

山岳地区・平昌(ピョンチャン)  
海岸地区・江陵(カンヌン)

## 2-3. 出張先

平昌/韓国:平昌2018パラリンピック冬季競技大会

## 2-4. 視察報告

- 1) 今大会の参加選手数547名とのことで規模的にかなりコンパクトに感じた。
- 2) 気象状況が春を思わせるほど暖かく、競技環境に対する調整の難しさが目立った。

選手村 非常にコンパクトにまとまった居住地域で移動しやすく感じた。

セキュリティー これまでの大会に比べ、軍隊、警察が表に出ている印象が見られなかった。多くのボランティアが中心になって運営されていた。

食事 韓国食のコーナーなどもあり、非常に充実していた。1996年アトランタ大会以降の全てのパラリンピックで最も質が高かった。

移動 会場周辺には多くのバスが路上駐車で待機している風景が見られた。参加人数以上にシャトルが準備されていたように見られた。

演出 どの競技も音楽や観客参加型の演出がされており、会場全体が一体化した工夫がされていた。



写真 アルペンスキー会場



写真 アイススレッジホッケー会場



写真 クロスカントリー会場



写真 会場視察に来られていた韓国の文在寅大統領

観客 各競技会場では動員された観客も含めて、会場の盛り上げに全体で応援し選手を応援していた。いつも海外の大会で思うところだがスポーツ観戦の楽しみ方を心得ている。大きな声を出して会場が一体になる、日本ではプロスポーツ観戦以外はなかなかこのような観客の盛り上げを感じる事ができない。



写真 大声援を送る観客席

競技力 各国が得意競技、種目を持っているように感じた。すべての競技を強化することではなく集中的な強化施策を決めているようだ。特にアメリカ、カナダ、NPA（ロシア）などの強国は狙った種目を取りこぼしていない点が強さである。



写真 アイススレッジホッケー会場

バリアフリー化 各会場での点を観察したが工夫はされていたが、冬季ということもあり夏季とは違い、更に工夫が必要だがダイニング内の配線や選手村内に張り巡らせた配線などバリアフリーにおいてはかなり厳しいものである。

### 3. まとめ

ソウル五輪、釜山アジア大会、日韓ワールドカップ、世界陸上大邱大会、仁川アジア大会そして、今回の平昌冬季五輪と多くの大規模国際大会を開催してきた大韓民国の力を垣間見ることができた2018平昌冬季パラリンピックであった。

来る東京2020パラリンピックに向けて、選手強化、大会運営にこの経験を活かしていきたい。最後になりますが今回の派遣に感謝申し上げます。